

埼臨技だより



発行所 公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会 〒330-0072 さいたま市浦和区領家7-14-7
TEL 048(824)4077 FAX 048(824)4095 URL:<http://www.sairingi.com/>
携帯URL:<http://www.sairingi.com/keitai/index.html> Twitter : @sairingi

令和5年度 埼玉県医師会臨床検査 精度管理調査試料の発送作業に参加して

令和5年度埼玉県医師会臨床検査精度管理調査試料の発送作業が2023年9月2日(土)に行われました。

スタッフとして参加された会員の方の感想を掲載いたします。

社会医療法人社幸会 行田総合病院
吉澤 悟

血液研究班員になり初めて、令和5年度埼玉県医師会臨床検査精度管理調査試料の発送作業に参加させていただきました。当院では毎年、埼玉県医師会の外部精度管理を実施しているのですがこのようにたくさんの研究班員の方々が集まり精度管理調査試料の発送作業を行なっていることに驚きを感じるとともに、何重ものチェックの上に自施設へ精度管理調査試料が発送されてくることを知り、貴重な体験ができました。

また今年度の発送施設数ですが、250施設数を超えており長い作業時間がかかると感じておりましたが、各研究班の精度管理担当者や理事の方々、発送業務施設職員、皆様の前準備もあり初めて参加した私でもスムーズに短い時間で発送作業を終えることができました。コの字になり研究班から研究班へ試料のバトンリレーがされていく様子を見て私は、埼玉県臨床検査技師会の一体感を感じ、研究班員に参加して良かったなと思える瞬間でした。さらに精度管理担当者との会話の中で毎年発送作業の作業時間が短縮していると聞き、各研究班員や理事の方々皆様の努力の賜物だと思いました。

私は昨年度から血液研究班に加えていただきましたが、コロナ禍もあり研修会や会議もWeb開催が主流で今回のような対面による交流はあまりありませんでした。しかし対面による活動が増え、今後皆様と対面で交流できることを楽しみにしています。

最後になりますが、埼玉県医師会臨床検査精度管理調査試料の発送作業に参加されました皆様、お疲れ様でした。



埼玉県済生会川口総合病院

南雲 涼太

埼玉県医師会臨床検査精度管理調査の箱詰め作業に参加しました。朝8時45分に箱詰め会場に集合し、各分野研究班員3名ほどと技師会理事の方々が流れ作業で試料を段ボールに入れていきます。各施設参加される項目も様々であり、入れる試料に間違いがないようダブルチェックをしながら進めていきます。250近くの医療機関が参加しているとのことなのでかなりの大仕事でした。しかしながら、箱詰めには毎年のように参加されている方が多くテキパキと正確に作業がおこなわれていました。この臨床検査精度管理調査の実施には箱詰め作業以外にも試料の作成・分注、画像サーベいの準備、データが集まってきた後にはその集計作業と多くの方々が関わり、1年をかけて作業がおこなわれています。これで参加費1万円は安すぎでは？と思いつつも、埼玉県の臨床検査を支えるために陰ながら仕事をされている皆さんの姿を見てプロ意識を感じました。ぜひ多くの方々にこの事業に関心をもっていただければ幸いです。また、参加施設のデータがあつての精度管理調査です。各施設の真剣な取り組みに敬意を表します。



第51回 埼玉県医学検査学会のお知らせ

開催日：令和5年12月3日(日)

会場：大宮ソニックシティ

テーマ：Let's connect!

サブテーマ：臨床検査技師になってよかった
～ 人との出会い・検査との出会い～



第51回 埼玉県医学検査学会
事務局 久保居 由紀子

今回はスライドデータの送付方法についてご案内いたします。

【スライドデータ送付方法】

発表用スライドデータ (Microsoft Power Pointで作成) は原則E-mail (以下メール) での送付となります。

ただし、ファイル容量が大きく添付が困難な場合は下記連絡先へお問い合わせください。

《送付方法》

- 1) 1演題につきメール1通に添付し送信してください。
- 2) メール「件名」を「演題番号 - 氏名」としてください。
例) 生1 - 埼玉太郎
演題番号は、演者へのメール または 第51回埼玉県医学検査学会HPにて、「会場別演題発表タイムテーブル」をご確認ください。
- 3) 本文には何も記載しないでください。
- 4) 添付するファイル名はメールの「件名」と同じにしてください。
- 5) 送付いただいたメールのデータは実行委員会にて責任を持って消去いたします。

《送付期限》

令和5年10月27日(金)～11月6日(月)必着

- ※ 複数回送付いただいても差し替えはできませんのでご注意ください。
- ※ 送付方法にかかわらず、スライドデータの受付から1週間以内に受付確認のメールを送信いたします。
送付から1週間が過ぎても連絡のない場合は、下記までお問い合わせください。

《一般演題、CM演題、学生演題 送付先》※一般演題、CM演題、学生演題 送付先は同一です。

学術部 佐藤 奈都美 (浦和医師会メディカルセンター)

E-mail : 51-samt-endai@urwmed.com TEL : 048-824-1629 FAX : 048-824-6314

《問い合わせ先》

学術部 急式 政志 (埼玉県立小児医療センター)

E-mail : kyushiki.masashi@saitama-pho.jp TEL : 048-601-2200 (代表)

第51回 埼玉県医学検査学会 運営部 渡邊 剛

第51回埼玉県医学検査学会にて運営部を担当しております、埼玉医科大学総合医療センターの渡邊と申します。

学会も残すところ2カ月を切りました。実行委員も終盤に差し掛かっており、本学会に向けて参加される会員の皆様滞りなく演題発表や講演視聴ができるよう、学会の設備やタイムスケジュールなどを検討しております。

ここで、特別講演・市民公開講演のお知らせです。特別企画の一つめは埼臨技神山清志会長による学生ランチョンセミナーです。臨床検査技師を目指す学生に、神山会長のこれまでの経験や臨床検査技師としての教訓をお話して下さると思います。二つ目は青年部企画として学生向け国家試験対策を、現場の知識とリンクさせながらお話していただきます。そして三つ目は研究班セミナー「初心者必見!! 検査データの見方と解説」と題して、臨床化学研究班と血液検査研究班が合同で行います。こちらもスマホを使用した選択式クイズを企画しており、講師からのわかりやすい解説付きですので、若手技師さんには特におすすめです!

市民公開講演では、第1回・2回のWBC日本代表、元千葉ロッテマリーンズ、現日本製鉄かずさマジック監督の渡辺俊介氏によるトークショー、今年第11回全国高等学校ダンス部選手権に出場した山村国際高等学校ダンス部のステージパフォーマンス、さらには講演開始前に小ホールにて「働く細胞クイズ」など、一段と学会を楽しめる企画を用意しております。

最後に、今回の学会テーマ「Let's connect!」にもあるように当日参加される会員の知識・技術の向上や、人との繋がりが増えますよう、学会実行委員一同、企画・設備運営の準備を着々と進めてまいります。多くの会員のご参加をお待ちしております!

研究班研修会報告

テーマ **尿検体の取扱い方！～それぞれの立場から解説します。**

主催 一般・微生物検査研究班 合同

実施日時：2023年6月29日 19時00分～20時00分

会 場：Web開催 教科・点数：専門教科－20点

講 演 1：一般検査のポイント

講 師 1：柿沼 智史（川口市立医療センター）

講 演 2：微生物検査のポイント

講 師 2：大塚 聖也（埼玉医科大学総合医療センター）

参加人数：会員204名

出席した研究班班員：

一般検査研究班：藤村和夫 室谷明子 柿沼智史 中川禎己 松本実華 渡邊裕樹
小針奈穂美 織田喜子

微生物検査研究班：小棚雅寛 伊波嵩之 酒井利育 佐々木真一 今井芙美 渡辺駿介
大塚聖也

研修内容の概要・感想など

今回初めて、一般検査研究班と微生物検査研究班の合同研修会を企画した。

一般検査も微生物検査も尿検体を取扱うが、双方の取扱い方は大きく違う。そこで、双方の立場から、尿検体の取扱い方のポイントを説明するWeb研修会を開催した。

一般検査の立場では、採尿方法、尿検体の前処理と留意点、検体必要量、検体の安定性などが説明された。尿定性検査は採尿してから直ぐに検査をすることが求められている。直ぐに実施できない場合は、冷蔵保存し4時間以内に検査を実施する。尿沈渣検査に関しても時間経過とともに赤血球・白血球・円柱などの沈渣成分は減少し、細菌は増加することから4時間以内に検査を実施する必要がある。また、尿沈渣検査に必要な尿量は原則10mL必要とされているが、尿量が少ない場合も検査は可能な限り実施し、その旨をコメントとして付記することが求められている。講師の柿沼氏の施設では、尿量1mL以上を受入可能基準とし、尿量が3mL以上ある場合はUF5000を使用して検査を実施しているが、それ未満では機械測定は実施せず、全て鏡検しているとのことだった。また、検体量が少ない場合の尿沈渣検査への影響を自施設での検討データから提示された。尿量が少ない場合は、沈渣量が減少するため、結果報告値も偽低値を示す傾向であった。他施設での運用事例や基準などを学ぶ機会は多くないため、とても参考になった。

微生物検査の立場からは、検体採取、保存・輸送、検体必要量、検体の安定性などについて説明された。微生物検査は発病初期、もしくは抗菌薬投与前に採取することが基本とされており、採取容器は原則、滅菌容器を使用し滅菌スピッツに5～10mL移して提出する。塗抹検査に10 μ L、培養検査で血液寒天培地に10 μ L、BTB乳糖寒天培地に10 μ Lの検体量を使用するため、最低1mLの検体量があれば検査が行えるとのことだった。一般検査より、採取方法の厳密さと、必要検体量の少なさに驚きを覚えた。また、時間経過とともに菌量が増加するため、検体採取後は速やかに検査を実施する。室温保存の条件下では30分以内に検査を行い、実施できない場合は、冷蔵保存を行い24時間以内に検査を実施する。一般検査終了後の尿検体は、室温条件下で当日保存している施設が多いが、この様な検体に微生物検査を追加する場合は、経過時間や参考値などコメントを付記して検査を実施するとのことだった。手順や基準と異なった点で検

査を実施した場合に、その旨をコメント付記し臨床に報告する対応は、一般検査と同じであった。

双方の立場から検体の取扱い方を学び、自施設の運用の見直しを考えさせられる研修会であった。次年度も合同の研修会を企画したい。

(文責：藤村和夫)

テーマ 腫瘍マーカー — 新規卵巣がんマーカー TFPI2を中心に —

主催 血清検査研究班

実施日時：2023年7月14日 18時30分～19時30分

会 場：Web開催 教科・点数：基礎教科—20点

講 師：浅越 綾 (東ソー株式会社)

参加人数：会員190名 賛助会員1名

出席した研究班班員：渡邊剛 山本晃司 岡倉勇太 飯山恵 森圭介 深田愛

研修内容の概要・感想など

今回は、癌の国内動向と前立腺がん、膵臓がんおよび卵巣がんについて各腫瘍マーカーの選択やその特徴に注目した研修内容であった。

がんは遺伝や加齢、喫煙、飲酒など様々な要因によって発症する。日本人における死因で最も多いのは悪性新生物であり (厚生労働省2021年人口動態統計より)、その罹患数は年々増加しているが中でも男性では前立腺および膵臓のがんが、女性では卵巣、子宮、乳房、および膵臓のがんが大きく増加している。

前立腺がんの症状は残尿感、尿漏れにはじまり、進行するにつれて血尿、排尿困難、骨の痛みなどを引き起こす。代表的な検査項目としてPSAがある。PSAは前立腺の上皮細胞に局在する短鎖状糖タンパク質であり、前立腺肥大症や前立腺炎、前立腺がんなどで細胞外へ漏出する。良性疾患か悪性疾患かの判別はTotal PSAの測定を基本とし、その他のマーカー (%fPSA、proPSA、phiなど) と共に総合的に判断すると高い特異度を得られる。

膵臓がんは症状として腰・背中での痛み、腹痛、腹部膨満感、食欲不振などを引き起こすが、がんが小さいうちは症状が現れにくく、早期発見が難しいとされる。膵臓がんマーカーとしてCA19-9、SPan-1、DUPAN-2、CEA、CA242などがあり、多くはフォローアップ、予後・治療効果の予測に有用とされ、これらの腫瘍マーカーは単独で用いるよりも組み合わせて用いることで高い特異度を得られる。例えば、CEA、CA19-9、CA242の膵臓がんに対する特異度はそれぞれ75%、43%、76%であるが、CEA+CA19-9+CA242を組み合わせることで特異度96%となり、確定診断により有用となる。

卵巣がんの症状は腹痛、頻尿、便秘から始まり、進行すると下腹部違和感、不正出血などを引き起こす。上皮性卵巣癌は4つの組織型 (漿液性癌、類内膜癌、明細胞癌、粘液性癌) に大別される。さらに漿液性癌は高異型度漿液性癌と低異型度漿液性癌に分けられる。中でも明細胞癌は進行が比較的遅めではあるが、抗がん剤感受性が低く、欧米人と比べ日本人で罹患割合が高い。卵巣がんマーカーは、CA125、CA19-9、CA602、HE4などがある。産婦人科診療ガイドライン婦人科外来編2020ではCA125を基本として他マーカーの中から組み合わせを考えることを推奨している。しかし、CA125を含め従来のマーカーは良性・悪性の鑑別においてCA125の補完が不十分 (特に明細胞癌) である点や術前に組織型を鑑別する術がない点、良性腫瘍における偽陽性が多い点が課題としてある。この課題を解決するため、新卵巣がんマーカーTFPI2が注目されている。

TFPI2 (組織因子経路インヒビター2) は分子量約30kDaの糖タンパク質であり、Kunitz

Domain (KD 1～3) を有するセリンプロテアーゼインヒビターである。胎盤で大量に発現し、周産期の重要因子と推察されている。他マーカーと比べ明細細胞癌判別能に優れ、生理周期の影響を受けず、良性腫瘍ではほとんど上昇しない特徴がある。また、CA125など他マーカーと組み合わせることで悪性腫瘍検出率を8.9～12.2%上昇させる研究結果がある。そのため、CA125とTFPI2を組み合わせることで、卵巣がん全体の検出感度が上昇し、卵巣腫瘍の分類（特に明細細胞癌）が可能になることが期待される。ただし、TFPI2は妊娠時に高値となるため、妊婦検体の測定には適さない。

今回の研修は、腫瘍マーカー検査を見直す良い機会となった。免疫血清分野は技術進歩に伴い、臨床で有用な新規マーカーが多く開発されている。これらの情報を自施設でも有益に活用していきたい。

(文責：岡倉勇太)

テーマ 尿沈渣を極める① ～ 赤血球、白血球編 ～

主催 一般検査研究班

実施日時：2023年7月18日 19時00分～20時00分

会場：Web開催 教科・点数：専門教科－20点

講演 1：赤血球編

講師 1：中川 禎己（小川赤十字病院）

講演 2：白血球編

講師 2：室谷 明子（埼玉医科大学国際医療センター）

参加人数：会員246名

出席した研究班班員：藤村和夫 室谷明子 柿沼智史 中川禎己 松本実華 渡邊裕樹
小針奈穂美 織田喜子

研修内容の概要・感想など

今回もWebでの研修会となった。「尿沈渣を極める」シリーズ①として中川氏と室谷氏を講師に、赤血球編と白血球編を開催した。

講演1では中川氏より、血尿をきたす疾患を挙げ、尿沈渣検査において赤血球形態の観察から、出血部位の推定がわかるコツなどの講演がなされた。実際に顕微鏡を覗いているような動画が取り入れられ、赤血球形態の鑑別方法を細かく解説された。また、形態鑑別が理解されているか、質問を交え確認しながら講演が進められていたことで、鑑別する力を身につけることができた。特に糸球体赤血球の報告は臨床にとって重要なものであり、報告の意義・重要性を再確認でき大変参考になった。

講演2では室谷氏より、白血球検査の進め方について講演がなされた。尿検査において混濁尿（白血球尿）は日常的に遭遇する機会が多い。白血球尿は尿路感染症に対して臨床的意義が高い。また、細菌を伴う沈渣所見が見られると、さらに尿路感染症の可能性は高くなる。尿試験紙法における白血球反応と尿沈渣検査の白血球数に乖離がみられることがあるが、試験紙法では、さまざまな偽反応があることを念頭において評価することが重要である。白血球鑑別では①大きさ（赤血球との比較）、②形態（死細胞と生細胞により形態が異なる）、③染色性（浸透圧やpHに影響を受ける）などが挙げられた。また、白血球分画では良質な標本作製の工夫も紹介され、参考になった。

尿沈渣検査は広く実施されている検査である。特に赤血球・白血球の鑑別は、臨床的意義が非常に高く遭遇する割合も高い。今回、鏡検動画による赤血球形態の鑑別や、白血球分画の見分け方など細部にわたって紹介され、より理解が深まった。施設内の新人教育や鏡検技術向上として、今後もこのような研修会を取り入れていきたい。

(文責：織田喜子)

テーマ 感染症治療の実際 ～ 感染症医が求める微生物検査 ～

主催 微生物検査研究班

実施日時：2023年7月21日 18時30分～19時40分

会 場：Web開催 教科・点数：専門教科－20点

講 師：今井 一男（埼玉医科大学病院）

参加人数：会員135名 賛助会員1名

出席した研究班班員：小棚雅寛 酒井利育 今井美美 伊波嵩之 渡辺駿介 大塚聖也

研修内容の概要・感想など

今回は、「感染症治療の実際 ～ 感染症医が求める微生物検査～」をテーマとし、今井医師を講師にWebにて開催した。

はじめに、感染症診療における総論と医師の考え方について解説があった。感染症治療の抗菌薬は、最大限の治療効果を発揮し、副作用や耐性菌出現、およびコラテラル・ダメージが最小限に抑えられるものが選択される。コラテラル・ダメージとは抗菌薬が標的菌以外にも作用することで正常な細菌叢が破綻することであり、*Clostridioides difficile*腸炎の発症や耐性菌出現リスクの増加に影響するとのことであった。感染症診療における医師の考え方として、どこに感染しているのか（①感染部位）、何の微生物が感染しているのか（②微生物）、最適な治療薬はなにか（③抗菌薬）、これらの3要素が考慮される。感染部位の推定や検出された微生物から選択される抗菌薬について、症例をもとに解説があった。

次に、微生物検査の変遷と感染症診療スタイルのアップデートについて解説があった。質量分析法や遺伝子検査の導入で微生物検査の迅速化が進んだことにより、感染症診療のスタイルも変わってきたとの話があった。質量分析法と遺伝子検査について、その有用性と導入におけるメリットおよびデメリットについて解説があった。

最後に、医師が微生物検査および検査技師に期待していることとして、迅速な菌種同定と薬剤感受性検査、微生物検査に関する幅広い知識などが挙げられた。また、検査結果だけではなく患者の臨床経過にも興味を持っていただきたいと話があった。

臨床経過を追うことは抗菌薬や感染症診療に関する知識の習得に直結する。それに加え、次に検体が提出された際、臨床が何を目的としているかを読み解き検査結果に反映させることでより良い結果報告に繋がると思われる。今回の研修会内容を日常の業務に活かしていただけると幸いである。

(文責：渡辺駿介)

**テーマ 凍結切片作製の実習・やってみよう川本法！
～ 適切な標本作製のために必要な知識と技術 ～**

主催 病理検査研究班

実施日時：2023年7月30日 12時30分～16時00分

会 場：学校法人明星学園 国際医療専門学校 教科・点数：専門教科－20点

講 演 1：凍結切片作製について

講 師 1：島田 真由（ライカマイクロシステムズ株式会社）

講 演 2：凍結切片作製方法 ～ 身に付けよう！トラブル回避術 ～

講 師 2：松本 祐弥（獨協医科大学埼玉医療センター）

参加人数：会員29名 賛助会員2名 非会員1名

出席した研究班班員：関口久男 森田繁 高橋俊介 細沼佑介 今村尚貴 遠山人成 松本祐弥
小島朋子

研修内容の概要・感想など

今回は「凍結切片作製の実習・やってみよう川本法！～適切な標本作製のために必要な知識と技術～」をテーマに、実に5年振りとなる現地での実技研修会を開催した。

島田氏からは、凍結組織標本作製の基礎として、検体の凍結手技からクライオスタットの操作方法、切片の薄切方法やアーチファクトについて説明があった。氷晶形成によるアーチファクトを防止するためには、最大氷晶形成帯をいかに早く通過し凍結させることが大切であり、少量のコンパウンドで検体を凍らせてから包埋皿に入れ凍結させる2段階凍結方法がお勧めであるとのことであった。

松本氏からは、凍結・包埋時のトラブル対処法及び実習で行う川本法について解説があった。過冷却による薄切時のすだれやブロックのひび割れ等、実際のトラブル発生時の説明が写真を用いて行なわれ、対処法についても解説があった。また、川本法についても、作製手技を動画を用いて説明があった。

実習では、参加者が一人ずつクライオスタットで実際に薄切を行い、川本法で作製した切片を各自へマトキシリン・エオジン染色し、封入、鏡検した。参加者が自施設以外の技師の手技を見ることは大変貴重であり、指導や見学等を通じて得られるものは多かったのではないかとされる。また、暫くWeb研修会が続いていた中で開催された実技研修会ということもあり、感染対策はしながらも、実習を通じて技師同士の交流の場にもなったように見受けられた。

本研修での川本法は凍結切片作製においては標準的な方法とはいえないが、手法の幅を広げる一端となったのではないかと思う。今回の研修会を通じて参加者の技術向上および業務への一助となれば幸いである。以下に受講者の感想を掲載する。
(文責：小島朋子)

彩の国東大宮メディカルセンター

小島 なるみ

今回初めて病理の実技研修会に参加させていただきました。凍結切片の作製方法についての説明やトラブル回避方法、粘着フィルム（川本法）を用いた凍結切片作製について教えていただきました。川本法とは、切片支持用粘着フィルムを用いて凍結切片を作製する方法で、作製困難な試料でも形態が保たれた切片を容易に作製できる方法です。骨や石灰化などの硬組織の標本作製では、固定～脱灰作業を有し、薄切も難しく熟練した技術が必要です。また免疫染色を行う場合、組織の過剰な固定や脱灰は抗原性を失活させてしまう可能性があります。しかし、川本法を用いれば未固定非脱灰の硬組織でも容易に綺麗な切片を作製できることがわかりました。さらに、脂肪組織の薄切時間の短縮や組織切片の欠損やめくれなどのアーチファクトが軽減されることから、近年、術中迅速病理診断の凍結切片作製にも有用であることが理解され多くの施設で活用されているとのことでした。

研修会では、実際に脂肪組織を試料とし、川本法を体験することができました。私自身は、脂肪組織が多い試料では形態が保たれた切片を作るには時間がかかってしまい、苦慮していたので上手く作製できるか不安でした。しかし、慣れるまでは粘着フィルムを張り付けるのに手間取ってしまいましたが、脂肪組織も綺麗に切ることができ、良好な切片を作製することができました。

さっそく当院でも活用できないか、乳腺の術中迅速病理診断の凍結切片作製時にサンプルを用いて標本作製しました。病理医からアーチファクトが加わることなく全面が薄切され、固定標本とほとんど変わらないと好評でした。身をもって川本法の有用性を体験することができ、大変実りある研修会でした。今研修会で得た知識と技術を業務に活かしていきたいと思えます。



テーマ 2023年 認定試験直前!! 細胞診セルフチェック 第1弾

主催 細胞検査研究班

実施日時：2023年8月10日 18時00分～19時30分

会 場：Web開催 教科・点数：専門教科-20点

講 演 1：婦人科領域

講 師 1：船津 靖亮（株式会社 正和ラボラトリー）

講 演 2：乳腺・甲状腺・リンパ節領域

講 師 2：稲山 拓司（深谷赤十字病院）

参加人数：会員175名

出席した研究班班員：鶴岡慎悟 船津靖亮 急式政志 加藤智美 野本伊織 稲山拓司
並木幸子 小川弘美 猪山和美

研修内容の概要・感想など

本研修会は、細胞検査士認定試験の合格を目指す受験者や細胞検査士が細胞像の復習を行うことを目的として、例年シリーズ化して開催している。今回の研修会は第1弾として婦人科領域と乳腺・甲状腺・リンパ節領域から写真問題の提示と解答の解説を実施した。

講演1では、船津氏より婦人科領域から計18問の細胞像の提示と解答の解説が行われた。婦人科領域は認定試験においても配分の多い分野であり、液状化細胞診（liquid-based cytology：LBC法）を含めた子宮頸部、子宮内膜に加えて卵巣腫瘍にわたり、幅広い内容であった。解説では細胞のとらえ方や着目する点、気を付けるべき所見などについて、初心者でも理解しやすく、試験直前の確認ができる内容であった。

講演2では、稲山氏より乳腺・甲状腺・リンパ節から各4問ずつ、計12問の細胞像の提示と解答の解説が行われた。それぞれの分野において、良悪性の鑑別に主軸を置いた設問であった。乳腺領域では細胞の出現パターンや背景所見、集塊の捉え方、甲状腺領域では様々な症例の鑑別ポイントがまとめられた解説で、リンパ節においては過去の出題傾向をふまえてホジキンリンパ腫・非ホジキンリンパ腫の鑑別を中心に解説が行われた。

実際の認定試験と同様の形式をとった本研修会は、受験者にとっては本番さながらの緊張感をもって参加できた内容と思われる。試験直前の確認として、また経験者の復習としても勉強できる内容であった。

（文責：猪山和美）

**令和5年度
公益社団法人埼玉県臨床検査技師会
第6回 理事会議事録**

日時：令和5年9月14日(木) 19時00分より

場所：埼臨技事務所

さいたま市浦和区領家7-14-7

議題：Ⅰ. 行動報告 Ⅱ. 報告事項

Ⅲ. 承認事項 Ⅳ. 議題

出席：現地にて出席

(理事)松岡 猪浦 山口 濱本 長澤

松寄 阿部 松尾 佐瀬 網野

三木 塚原 神嶋 伊藤(恵)

伊藤(隆) 石井 神戸 小林

長岡 久保田 長谷川

(Zoomにて参加) 神山

(監事)遠藤 細谷

欠席：なし

本日の理事会の出席者は24名であった。理事の出席者は22名で、現在22名の過半数に達しており、定款第33条第1項の決議を行うに必要な要件を満たしていることを確認した。

議長は、定款第32条第1項より、神山清志会長が務めることとなった。

Ⅰ. 行動報告

(令和5年8月10日～令和5年9月13日)

8月10日(木)令和5年度第5回理事会：

神山、松岡、猪浦、山口、濱本、松寄、阿部、松尾、網野、佐瀬、塚原、神嶋、伊藤(恵)、伊藤(隆)、長岡、久保田、長谷川、神戸、石井、小林、遠藤

8月17日(木)第51回埼玉県医学検査学会実行委員会：三木、佐瀬

8月17日(木)事務所巡回：松寄

8月17日(木)日臨技精度保証会議：神山

8月19日(土)タスクシフト指定講習会(埼玉017)：

松岡、猪浦、長澤、松寄、石井、伊藤(恵)、佐瀬、三木

8月23日(水)第23回わらび健康まつり実行委員会(第2回)：塚原

8月24日(木)埼玉県精度管理委員会：神山

8月30日(水)日臨技表彰委員会：神山

9月2日(土)埼玉県医師会精度管理発送準備：神山、松岡、猪浦、山口、濱本、松寄、神戸、石井、伊藤(恵)、網野、久保田

9月9日(土)日臨技執行理事会：神山

9月9日(土)一都八県会長会議：神山、松岡

9月13日(水)日臨技精度保証サポート事業WG会議：神山

Ⅱ. 報告事項

1 事務局

1) 8月18日(金)埼玉県より当会が推薦した2名の会員が埼玉県公衆衛生事業功労者表彰に決定した通知が送付された。

茂木 孝一 氏

(深谷寄居医師会メディカルセンター)

関口 久男 氏

(埼玉県済生会加須病院)

2) 8月22日(火)メネルジア株式会社より会員管理システムの説明があった。

(別紙資料1)

3) 8月31日(木)日臨技より結核予防研究奨励賞の推薦依頼があった。

4) 日臨技首都圏支部・関甲信支部学会(59回)より一般演題の座長推薦依頼があった。

2 総務部

1) 8月19日(土)タスクシフト指定講習会(埼玉017)を開催した。(別紙資料2)

2) 9月8日(金)2023年度会員名簿に記載するダイヤルイン施設の確認のため施設長宛てに一斉メールを配信した。

3) 9月15日(金)埼臨技だより第532号発行予定。

4) 9月17日(日)タスクシフト指定講習会(埼玉県018)を開催予定。運営責任者は松寄事務次長。

3 事業部

1) 8月23日(水)わらび健康まつり実行委員会に参加した。(別紙資料3)

- 2) 全国「検査と健康展」の最終予算書を日臨技へ提出した。(別紙資料4)

4 学 術 部

- 1) 埼玉県感染症対策課より依頼のあった、性感染症の検査を担当する職員向けの講義について、血清検査研究班山本副班長に担当していただく予定。

- 2) 第51回学会一般演題座長推薦について各研究班へ依頼した。

- 3) 8月26日(土)「10月・11月生涯教育研修プログラム」の日臨技システム行事登録作業を完了した。

- 4) 9月26日(火)に令和5年度第2回研究班運営委員会開催予定。

5 精度保証部

特になし

6 会 計 部

- 1) 令和5年度正会員費15名75,000円、入会金15名15,000円、合計90,000円の入金があった。

- 2) 日臨技より、日臨技生涯教育推進研修会助成金50,000円の入金があった。

- 3) 石井印刷に埼臨技だより530号Web PDF 10P 50,600円、埼臨技だより531号Web PDF 14P 68,200円、合計118,800円を支払った。

7 精度管理委員会

- 1) 9月2日(土)令和5年度埼玉県医師会精度管理調査の試料発送作業を実施した。

8 一都八県会長会議

- 1) 9月9日(土)臨時一都八県会長会議が開催された。次期日臨技会長選挙立候補者の擁立について、一都八県技師会連名で推薦することで決定した。(別紙資料5)

9 日臨技関甲信支部

特になし

10 日臨技

特になし

11 第51回埼玉県医学検査学会

- 1) 8月17日(木)第11回実行委員会を開催した。(別紙資料6)

Ⅲ. 承認事項

1 事務局

- 1) 会員動向(令和5年度分)

令和5年9月1日現在
会員数 3,607名[令和4年度会員数3,458名]
(新入会員 254名)
賛助会員 70社[令和4年度 71社]
承認された。

2 総務部

- 1) 埼臨技会員名簿の印刷費用について

(別紙資料7)

上記の件について、阿部健一郎総務部長から発言があり、審議の結果、承認された。

- 2) 第52回埼玉県医学検査学会実行委員の選任について

(別紙資料8)

上記の件について、阿部健一郎総務部長から発言があり、審議の結果、承認された。

3 事業部

特になし

4 学術部

- 1) 研修会事業の変更について

血清検査研究班が4月に予定していた精度管理に関する研修会を12月に実施としたい。

上記の件について、長岡勇吾学術部長から発言があり、審議の結果、承認された。

- 2) ソニックシティの施設名称表記に関する申し合わせについて

(別紙資料9)

上記の件について、長岡勇吾学術部長から発言があり、審議の結果、生涯教育プログラム等で使用するソニックシティの名称の表記について統一することで承認された。

5 精度保証部

特になし

6 会計部

特になし

7 精度管理委員会

特になし

8 第51回埼玉県医学検査学会

上程事項の3件について承認いただきたい。

- 1) 埼臨技理事に当日実務委員を依頼したい。

- 2) HP委員会に記録係の派遣を依頼したい。

3) チーム医療、管理運営の座長を理事へ依頼したい。
上記の件について、三木隆治学会担当理事から発言があり、審議の結果、承認された。

- 3 事業部
特になし
- 4 学術部
特になし
- 5 精度保証部
特になし
- 6 会計部
特になし

IV. 議題

- 1 事務局
特になし
- 2 総務部
特になし

以上で本日の議事を終了し、議長は協力を謝して閉会とした。



お知らせ

公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会 創立70周年記念式典・祝賀会開催のお知らせ

開 催：令和6年2月24日(土)

会 場：ソニックシティビル市民ホール並びにパレスホテル大宮

詳細につきましては次号のだより、一斉メール等でご案内します。

あ と が き

日本三大花火大会の1つと言われる「大曲の花火（全国花火競技大会）」（秋田県）を觀賞して来ました。明治43年に開始されたという歴史のある花火大会です。「昼花火の部」では、普段見られない明るい中での花火を見ることができます。光の代わりに色煙（紅・黄・青・緑・紫など）を駆使して色彩豊かに空に模様が描かれるのですが、煙の形が昇り竜のように見え、花火通が好むというのも納得な花火でした。もちろん「夜花火の部」も質の高い花火を見ることができ、フィナーレは圧倒される素晴らしさです。大曲の花火は夏だけでなく、季節ごとに異なるテーマで開催されているとのこと。他の季節の花火も見てみたくなりました。

新型コロナウイルス流行以来、久々の旅行でした。インフルエンザウイルスもすでに流行の兆しがありますが、感染対策に留意してリフレッシュの旅はいかがでしょうか。

(石井 記)

